

直方市の鉄工業～明治・大正時代

明治2年に鉱山解放令が出され、これを機に多くの炭鉱が乱立しました。明治12年ころになると、その数は数百になったといわれています。それに伴い、炭鉱で使う道具や機器機械類が必要となり、鉄工業が発展しました。明治12年、直方最初の鉄工場である加藤鉄工所ができたのを皮切りに、明治20～30年代にかけて多くの鉄工所が出現しました。

明治19年	中村組鉄工所	中村清七
明治20年	飯野鉄工所	飯野範造
	牛島鉄工所	牛島初太郎
明治25年	村上鉄工所	村上福太郎
明治27年	福島鉄工所	福島岩次郎
明治30年	飯野鉄工所	飯野瀧造

「直方鐵工界の歩み

・直方鉄工協同組合80年史・」 N560 /

「続 直方歴史ものがたり」 N219 /

日清・日露戦争によって石炭の需要が増加するに伴い、直方の鉄工場は増加し、直方駅付近には鉱山機械を扱う専門店も立ち並び、『筑豊炭鉱誌』に「鉄工所の設立日を追うて増加し、ばい煙全市をおおうて鉄槌の響き絶えざるが如し」と記述されるほどの好景気となります。しかし戦後は不況の波が押し寄せ多くの炭鉱が休鉱し、直方の鉄工場は仕事が無くなるばかりか売掛金の回収もできず、大きな打撃を受けました。そこで中村清七、飯野瀧造ら鉄工業者が話し合い、明治33年、18の工場からなる「直方鉄工同業組合」が結成されました。同業組合は大正5年「直方鉄工業組合」となり、材料の共同購入や技術研究などを目指し、直方で最初の近代的な工業組合となりました。直方の鉄工業は炭鉱の盛衰と共にあったといえるでしょう。

筑豊の民話 -猫塚-

その昔、若宮では毎年数十日の間、飼い猫が姿を隠すのだという。帰ってきた猫の体はやつれ、口は耳まで裂け、眼光鋭く、異様な姿になっている。そのため「阿蘇山の根子岳に修行に行っているのだ」「体の大きな猫は、この修行で不思議な力を得る」と、みなが噂していた。

見坂峠という所に裕福な家があり、その家の離れ座敷に旅僧が泊まったある夜のこと…。この家の飼い猫が大きな唸り声をあげて村を駆け回り、その声を聞いた村中の猫も続々と集まった。庭からあふれんばかりの猫が、離れをとり囲んでいる。十分な数が揃ったのか、猫たちは一斉に離れの中になだれ込み、辺りに激しい物音と大きな唸り声が轟いた。家人は驚きと恐ろしさで、家の中で息をひそめるばかり…。猫は旅僧に襲いかかり、争っている様子だ。中の猫の声が弱まれば、次の猫が突入し、また激しく争う。これは一晩中続いた。夜が明け、離れは静まりかえっていた。猫の姿は一匹も見当たらない。人を集めて離れに入ると、猫の死がいの山ができており、その下では巨大なネズミが息絶えていた。旅僧の正体はネズミだったのだ。この家の猫は、修行のおかげで旅僧の正体に気づき、猫を集めて化けネズミを退治したのである。人々は猫の死がいを集めて塚を作り、葬った。これが「猫塚」の由来とされている（若宮市）

「ふるさと筑豊 -民話と史実を探る-」 N388 千

「しまやの筑豊物語 1～6（紙芝居）」 Pシ



随専寺墓地にある「中村清七氏碑」の碑文によると、中村清七（1852-1920）は長崎に生まれ、12歳で長崎製鉄所にてオランダ人より機械の製作を学びます。明治6年から唐津炭鋳、糸田炭鋳の機械長を経て、明治10年貝島太助に招かれ、直方炭鋳の機械監督を務めました。その後辞して五島の亀嶋氏の汽船、大高丸の汽機汽缶を製造しました。これらの機械は全て中村氏一人で作り上げ、人々が驚嘆したそうです。明治13年に再び長崎製鉄所で研修を積み、明治17年貝島太助に再度招かれ、斬波炭鋳・大之浦炭鋳の機械監督を任されました。明治20年直方の西町で初めて本格的な鉄工場を開設し、業績の拡大によって津田町に分工場を作り、百台に上る機械を制作していました。明治22年病のため事業を譲りましたが、後進の育成に努め、筑豊の鉄工業の生みの親とされています。

飯野滝造は明治元年（1868）直方に生まれ、町の鉄工場で見習工として働いていましたが、上京して石川島造船所で技術を磨きました。明治29年兄の死により帰郷、明治30年飯野鉄工場を創立します。大正5年直方鉄工業組合の初代組合長を務め、直方鉄工業界の重鎮として活躍しました。鉄工場創立当時付けていた日記は「飯野滝造日記」と呼ばれ、当時の鉄工場の様子のみでなく、人々の暮らしが伝わる貴重な資料となっています。



「直方碑物語」 N219

「直方文化商工史」 N302

はじめの一步 ～郷土資料の紹介～

直方市立図書館にある郷土関係の本を紹介していきます。
郷土の歴史や文化に興味をもってください。きっかけになればと思っています。

『福岡かるた風土記』 岡部 定一郎：著 西日本新聞社 N798ケ

小倉百人一首と不思議な縁でつながっている、ここ福岡。
福岡は古くから大宰府政庁や鴻臚館（こうろかん）があったアジアの窓口であり、16世紀にポルトガルから日本で初めてかるたが伝わった地でもあります。
本書では、天智天皇や菅原道真、紫式部、清少納言、柿本人麿などの、名だたる偉人の半生と和歌の背景を解説しながら、福岡とのつながりや知られざる関係をひも解きます。歌人を題材にした博多人形の写真も掲載。
著者の岡部氏は福岡県太宰府市在住。全日本かるた協会8段で、同市教育委員長や福岡城市民の会事務局長などを歴任した、福岡や博多の歴史・文化に精通した郷土史家です。



直方市立図書館 直方市山部 301-11 コメニティのおがた内
TEL 0949-25-2240 FAX 0949-23-3902